

科目名	研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	佐々木 宏之		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410039	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	卒業研究に向けた論文抄読				
内容	<p>①文献収集 図書館、インターネット各種データベース、書店HPを用いて、卒業研究のテーマとなる論文、書籍を収集する。</p> <p>②テーマ選択 収集した先行研究をもとに卒業研究のテーマの絞り込みを行う。</p> <p>③英語論文紹介 参考とする英語論文についてレジュメにまとめ、論文内容と卒業研究の方向性を発表する（各週2人ずつ）。発表や発表資料に対して、研究室のメンバー全員で議論する。</p> <p>④研究実施に向けたスキルの習得 各テーマにおいて必要なスキル（プログラミング言語、データ解析など）を習得する。 【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】</p> <p>毎週2人ずつ、先行研究論文についてレジュメを作成し、紹介する。 紹介された論文について、質疑応答を行う。</p>				

学修到達目標	卒業研究のテーマの絞り込み、研究実施のための専門性とスキルを身につく。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間（卒論テーマについての先行研究を探す）
【復習】時間・内容	2時間（発表資料を基に授業内容のふりかえり）

成績評価	
評価基準・方法	【成績評価】論文紹介（80%）、ディスカッション（20%）に対する取り組み。
フィードバック方法	発表内容について解説を加える。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	特になし。
---------	-------

受講上の留意点等	<p>文献調査においては、英語論文の読解が必須である。</p> <p>ゼミ活動と並行して、卒業研究へ向けたテーマ選びを行います。 毎週の宿題として、報告してもらいます。</p>
JABEE	

科目名	研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	内田 亨	実務経験の有無		○	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410039	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	<p>「経営学的思考による真理の探究と社会への応用」 キーワード：経営管理、経営組織、ビジネスモデル、経営戦略、人的資源管理、地域経営、国際（フランス）、水産養殖事業、社員の幸せ。</p>				
内容	<p>研究ゼミナール2では、「新潟ビズエキスポ」や「燕三条モノづくりメッセ」に行き、企業研究を実施。大学間合同ゼミ発表大会（日大、成城、桜美林、関東学院、神奈川、高崎経済）に有志で参加・親睦。グループ発表テーマ自由。</p>				

学修到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 将来を考え、在学中に成長したい意欲が身につきます。 2. ものごとの新たな発見・メカニズムを説明する能力が身につきます。 3. 「ゼミタイトル・テーマ」に掲げたキーワードに関する知識が身につきます。 4. 学外へ出かけるためフットワークの軽い学生に育ちます。 5. 文章を論理的に書く能力が身につきます。 6. 企画書作成能力やその企画を実践する能力が身につきます。
実務経験との関連性	<p>セールスプランニングや販売促進の経験を活かし、企画書の作り方を解説。 新製品説明の経験を活かし、プレゼンテーションのノウハウを解説。</p>

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。前週配布資料の予習。
【復習】時間・内容	2時間。資料の不明点を理解する。

成績評価	
評価基準・方法	①ディスカッションへの参加度（40%）、②企画書の出来栄え（20%）、③企画の実践および対象先からの評価（40%）
フィードバック方法	企画書等を毎回添削します。 プロジェクトにおける先方からの評価を講評します。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	なし。
---------	-----

受講上の留意点等	<ol style="list-style-type: none">(1) 「自分はどこに行っても通用する人間になるのだ」という向上心と信念を持った学生を歓迎します。(2) ゼミのメンバーリストを作り、その中で出欠や情報交換をしていきます。(3) 井の中の蛙にならないように、学外の人・組織と交流しますので、積極的に参加してください。(4) 報告書作成が必須なので、文章力をつけるよう努力してください。(5) ゼミ生には、セルフ・マネジメントと、積極的にディスカッションに参画することが求められます。(6) 本ゼミナールを通して、社会に通用するスキル・能力・思考力を身につけるという意識を持ってください。(7) 土曜日曜に学外へフィールドワーク、外部交流をすることもあるので承知しておいてください。(8) 私の海外研修での経験をみなさんへの教育に活かしたいと思います（世界ではどのような教育が行われているか）。
JABEE	

科目名	研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	今井 裕紀	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410039	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	経営における人と組織				
内容	<p>本ゼミナールでは、人と組織に関する経営課題、社会課題に関連したテーマを各自が設定し、調査・分析の実施、結果の考察などの一連の研究プロジェクトを遂行できるようになることを目指します。</p> <p>研究対象分野は経営学における、人間の行動や、経営組織のマネジメントについての研究です。この分野における研究の例としては、ワークライフバランスの実現や、多様な人材の活躍推進およびキャリア形成支援、職場定着支援、ストレス、動機づけなどが挙げられます。また、企業の経営行動、経営に関連した社会課題などを研究の対象に含めることも可能です。</p> <p>指導可能な研究の方法は主に次の2つです。 1) 公開資料にもとづく調査、分析（白書、有価証券報告書、政府統計や各種報告書などを用いた分析） 2) アンケート調査（心理、社会心理、組織心理などに関連する内容を調査し、統計解析する）</p> <p>進め方は以下のようになります。 ①社会科学における基本的な研究の方法論について学ぶ。特に統計の基本的な使い方を実習形式で学ぶ。 ②研究テーマを設定する。 ③研究テーマに関連する社会、産業、労働市場等の動向について幅広く整理する。 ④研究テーマに適した調査を行い、分析する。 ⑤分析結果について考察する。</p> <p>統計については、別途テキストを指定します。 レポート、発表、面談を適宜実施します。</p>				

学修到達目標	テーマ設定、調査・分析の実施、結果の考察などの一連の研究プロジェクトを遂行できるようになる
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究に必要な調査、分析、考察等を行う。 必要時間数：2時間
【復習】時間・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究に必要な調査、分析、考察等を行う。 ・授業での意見交換の結果を踏まえて考察する。 必要時間数：2時間

成績評価	
評価基準・方法	クラス参加度・ディスカッション貢献度（30%）、発表・レポート（70%）
フィードバック方法	授業中に講評を行う。あるいはポータルサイトで講評を掲示する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション

教科書/参考書	別途指定します
---------	---------

受講上の留意点等	組織行動論を履修していることが望ましい
JABEE	

科目名	研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	小宮山 智志		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410039	経営情報学部C：情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること			
授業の目的・テーマ	多様な価値観に触れることで、新しいアイデアを創出し、集団で問題解決することを、学びます。				
内容	<p>グループワークを通して、他者の意見を参考にしながら、各自、研究計画と履歴書の自己紹介書を執筆します。いずれも就職活動が本格化する3年次の2月までに終わらせておく必要があります。研究計画・自己紹介書の執筆は論理的な文章を書く大変良い練習です。また研究計画書が完成していると、研究に必要な時間の総量がある程度、把握できるため、安心して就職活動ができます。2つの課題を作成するために図書館・必要な文献の探し方（芋ずる式・ブラブラ検索・データベースの利用など）・研究方法の習得（仮説の立て方）、面接の練習を行います。卒業研究1～4いずれにおいても、グループワークを行い、お互いの意見を参考にしながら進めます。また卒業研究1で地域活動を行った場合、継続して実施することもあります。また前期に引き続き、地域活動を行うこともあります。</p> <p>9月 研究の3条件 仮説の立て方</p> <p>10月 仮説の検証の仕方（インプリケーションと真理表）</p> <p>11月 自己紹介文執筆のためのグループワーク キャリアセンター訪問 自己紹介書の執筆</p> <p>12月 文献の探し方 研究計画の作成 面接練習 自己紹介書の執筆</p> <p>1月 卒論発表会に参加しての振り返り 研究計画の作成 自己紹介書の執筆</p> <p>毎回、グループワークを通して、アイデアを創出することを学びます。</p>				

学修到達目標	1. 自分の研究が社会にどのような貢献・影響を及ぼすか考察してください。 2. 新しく、社会に役立ち、根拠のある情報を創りだしてください。 3. 情報システムを利用して研究する能力を身につけてください。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	約2時間：グループワークに応じた予習を行なってもらいます。
【復習】時間・内容	約2時間：グループワークに内容に応じた復習を行ってもらいます。

成績評価	
評価基準・方法	各回のグループワークでの活躍（50%）と、研究計画・自己紹介書で評価します（50%）。グループワークでアイデアを出すことはとても重要です。それと同時に、各自でアイデアを文章にまとめる力も養います。どちらもイーブン（50%ずつ）で評価します。自己紹介書・研究計画書は共有フォルダで各自のレポートへのコメントを共有し、春休みの面接練習・サブセミ等のグループワークを通して、フィードバックします。
フィードバック方法	共有フォルダで各自のレポートへのコメントを共有し、さらにグループワークを通して、フィードバックします。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	グループワーク

教科書/参考書	チャールズ・A・レイブ, ジェームズ・G・マーチ (佐藤嘉倫[ほか]訳) 『社会科学のためのモデル入門』 (ハーベスト社 1991年) の第1～3章 世界思想社編集部 『大学生 学びのハンドブック [4訂版]』 (社会思想社 2018年)
---------	--

受講上の留意点等	<ul style="list-style-type: none">* 詳細は小宮山のホームページ (http://www.nuis.ac.jp/~komiya/) で公開します。* 春休みにサブゼミ (1日程度) を開きます。日程等は参加者の皆さんの都合に合わせてます。* 先輩の卒業研究発表会には必ず出席してください。* 無断欠席は認めません。全員に迷惑が及びます。可及的速やかに連絡してください。* 虚偽の申告をした方は、単位の取得はできません。情報システムを利用して研究する能力を身につけてください。
JABEE	

科目名	研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	佐々木 桐子	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410039	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	シミュレーション				
内容	<p>システムを調査・分析し、シミュレーションモデルを構築し、シミュレーション実験をおこない、問題解決策を検討します。授業内容は以下のとおりです。</p> <p>離散系シミュレーション言語の習得。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 道路交通モデルの構築およびその発表。 ② 現実のシステムへの応用およびその発表。 				

学修到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にあるさまざまなシステムに興味を持ち、そこで起こる問題を発見し、モデル化することができる。 ・離散系シミュレーション言語を習得できる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間
【復習】時間・内容	2時間

成績評価	
評価基準・方法	成果物（50点）、発表会（50点）により評価します。
フィードバック方法	発表会の後に、講評をおこないます。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	研究ゼミナール1の時に配付した「講義ノート」を使用します。
---------	-------------------------------

受講上の留意点等	
JABEE	

科目名	研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	木村 誠	実務経験の有無		○	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410039	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	指数的成長技術時代のデジタル戦略2：事業・産業・ライフプランの未来を考える				
内容	<p>伝統的ゼミナールの運営手法である輪講担当箇所のレジュメ（要約）を通じた共通理解と内容の肯定あるいは否定についての議論を行う。デジタル戦略に関する「ダイヤモンド ハーバードビジネス」（日本語）の古典・著名・最新原稿を輪講する。「ダイヤモンド ハーバードビジネス」の原稿は、教員が選定して用意する。輪講担当者は興味のある原稿を選んでプレゼンテーションを行う。ダイヤモンドハーバードビジネスの紹介URL（https://www.dhbr.net/list/about）。各回の輪講担当者が行うこと</p> <p>? 全体の内容を容易に把握できるレジュメ作成を心がける。</p> <p>① 担当原稿のレジュメはA4サイズ2頁以内に収める。</p> <p>② 原稿タイトルと頁（記述箇所）を明示する。</p> <p>③ 箇条書きで、矢印を多用する。特に時期や数量を抽出する。</p> <p>④ レジュメの補足資料として、スライド（図、表、グラフ、写真、動画等）を作成する。</p> <p>（※）個人の意見は書かない。内容の要約に専念する</p>				

学修到達目標	レジュメ作成を通じて、大学生としての読解力、文章作成の能力を向上できる。世界的経営専門誌の中身に触れることができる。産業や経営の今日的問題への展望が得られる。自分の未来への指針をもつことができる。
実務経験との関連性	米国製ソフトウェア販売代理店業務（営業企画推進）の経験を活かし、現状の知見と未来への思考について解説。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	輪講箇所の通読。輪講担当者はレジュメ作成。これらの確認作業に2時間を要する。
【復習】時間・内容	レジュメの見直し。週次課題レポートの作成のための調査、思考、記述と提出。これらの確認作業に2時間を要する。

成績評価	
評価基準・方法	週次課題レポート（40%）、期末課題レポート（30%）、輪講担当（30%）の総合的評価を行う。
フィードバック方法	Slackの「help-研究ゼミナール2」チャンネルでインタラクティブに対応する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート

教科書/参考書	参考書：ピーター・ディアマンディス、スティーブン・コトラー『2030年：すべてが「加速」する世界に備えよ』NewsPicksパブリッシング、2020年、2640円。根来龍之『集中講義デジタル戦略 テクノロジーバトルのフレームワーク』日経BP社、2019年、2200円
---------	---

受講上の留意点等	前提科目として「デジタル戦略論」受講が望ましい。担当教員の研究分野と研究実績は、次URLで公開。 https://researchmap.jp/platform
JABEE	

科目名	研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	藤瀬 武彦		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410039	経営情報学部A：健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること			
授業の目的・テーマ	<p>本研究室では主に健康スポーツ科学関連の分野について研究指導を行う。その内容は私たち人間にとって最も身近な「身体の組成や機能」に関する研究、「健康体づくり」や「競技スポーツ」に関する研究、さらには私たちの生活に関わる「医療」や「交通」などの問題についての研究にまで及ぶ。授業では興味のある事柄に関する文献等を精読するとともに卒業論文のテーマを決定し、実験・測定・アンケートによって必要なデータを収集し、統計的手法を用いて分析することなどを行い、最終的に卒業論文を完成させることを目的とする。</p> <p>卒業研究2では、各々が卒業論文のテーマにつながるような研究論文を精読することにより基礎知識を身に付けるとともに発表用の資料を作成してプレゼンテーションを行う（抄読会）。そして、精読した論文などを参考にして卒業論文計画書を作成する。</p>				
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研究ゼミナール2ガイダンス 2) 文献検索の方法 3) 文献収集 4) 抄読会資料作成 5) 抄読会① (2~3名) 6) 抄読会② (2~3名) 7) 抄読会③ (2~3名) 8) 抄読会④ (2~3名) 9) 4年生卒論発表練習会に参加 10) 卒業論文計画書作成の要領 11) 文献収集と卒業論文計画書作成① 12) 文献収集と卒業論文計画書作成② 13) 4年生卒業論文発表会に参加 14) 卒業論文計画書作成③ 15) 卒業論文計画書作成④ (提出) 				

学修到達目標	F: 文献考証等をしっかり行い、自己のオリジナルデータを収集し、研究として意義のあるものを追求する。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	<ol style="list-style-type: none"> 過去の卒論などを参考にして研究テーマについて考える① 研究テーマのキーワードを考える 文献検索を行い、興味ある研究報告や論文を印刷する 抄読会資料を作成する① 抄読会資料を作成する③ データ分析に用いられている統計手法について架空の数値等を用いて練習する① 他者が報告した文献について興味や疑問を持ったことについて調査する① 他者が報告した研究論文について興味や疑問を持ったことについて調べる③ 発表会における質問・意見等を考える 文献検索を行い、読みたい研究論文を精読するとともに研究テーマを考える① 文献検索を行い、読みたい研究論文を精読するとともに研究テーマを考える③
【復習】時間・内容	<ol style="list-style-type: none"> 過去の卒論などを参考にして研究テーマについて考える② キーワードを用いて研究論文を検索する 興味ある研究報告・研究論文を精読する 抄読会資料を作成する① 抄読会資料を加筆・修正して提出する データ分析に用いられている統計手法について架空の数値等を用いて練習する② 他者が報告した文献について興味や疑問を持ったことについて調査する② 他者が報告した研究論文について興味や疑問を持ったことについて調べる④ 4年生卒論発表練習会を参考にして自己の研究テーマを考える 文献検索を行い、読みたい研究論文を精読するとともに研究テーマを考える② 現時点での研究テーマを決定し、諸言（研究目的）を作成する①

成績評価	
評価基準・方法	授業中の課題や質疑応答などによる演習点60点（遅刻等による減点あり）及び課題点（レポート等）40点により評価する。
フィードバック方法	質問等があれば時間外でも可能な限り対応する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	特になし。
---------	-------

受講上の留意点等	できる限り遅刻や無断欠席（事前に本人が届を出す）をしないこと、課題の提出期限を厳守すること、また授業中は質疑応答などで積極的に質問し意見を述べてもらいたい。
JABEE	

科目名	研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	藤田 晴啓		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410039	経営情報学部A：健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること			
授業の目的・テーマ	<p>上記「関連するディプロマポリシー」より以下の経営学科のディプロマポリシーが本ゼミナールにふさわしいので、以下のとおり修正します 「人間の特性および人間活動、社会環境の理解に基づいた、地域の問題解決を提案・支援・実現できる人材育成」を目標に、以下の目的を設定します</p> <ol style="list-style-type: none"> 最新のデータサイエンス・深層学習によりほぼ実物と変わらない合成されたヒトの顔を見たときヒトの認知にはどのような反応があるのか探る 地域の課題、特に人口流出に目を向け、その因果関係の解明と解決法について現地のヒトと協力して模索する 				
内容	<p>ゼミナールの内容は以下のとおりです</p> <p>卒業研究を以下のうちひとつを選択、あるいは個人的に希望するテーマを教員と個別相談を行い、研究を開始する</p> <ol style="list-style-type: none"> 人口の顔を生成するディープラーニング（深層学習）を演習し、被験者テストを行いヒトの心理的反応に関する研究 その他ホログラム・ディープラーニングに関する研究 佐渡・新潟の人口流出課題の原因と解決策に関する研究 地域の商業・まちづくりに関する研究 ホロレンズとディープラーニング連携による物体検知に関する研究 <p>この学期では序章、仮説に基づく調査結果の結論を中心に 毎週少しずつ卒論を書き、教員が個別指導 卒論は3年次中に多くの部分が書き上がります</p>				

学修到達目標	データサイエンスにおける社会環境の理解に基づき、深層学習で作成される合成物に対するヒトの反応と行動を解析できる新潟の人口流出問題解決を調査し、現地住民との交流により特殊旅行商品や雇用創生を含めた解決策を提案、情報発信、現地を支援、豊かな集落社会を実現できる
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	ゼミナール生は毎週1ページ程度の卒論原稿を提出することが求められます（予習） これには2時間以上を要します
【復習】時間・内容	ゼミナール生は毎回のゼミナールに指導教員から指導受けた内容で卒論原稿を修正します（復習） これには2時間以上を要します

成績評価	
評価基準・方法	卒論原稿の提出とその内容（100%）
フィードバック方法	毎回個人指導を行い執筆した卒論原稿に対しコメントを行う

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	必要に応じて配布します
---------	-------------

<p>受講上の留意点等</p>	<p>自ら考え、行動することを心がけるようにしてください</p>
<p>JABEE</p>	

科目名	研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	山下 功	実務経験の有無		○	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410039	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	<p>管理会計と会計情報システムに関する研究 ～会計情報を活用して企業の命を救うことができます～</p>				
内容	<p>このゼミナールでは、管理会計と会計情報システムに関する研究を行います。 管理会計は「経営に役立つ会計」であり、企業の目標を達成するために会計情報を認識、測定、集計、分析、解釈する一連のプロセスです。それゆえ、財務会計が企業外部への報告を目的とするのに対して、管理会計では内部報告目的が重視されます。また、コンピュータの性能と通信技術が発展したことにより、経営情報システムと会計との結びつきが一層強くなっています。</p> <p>「研究ゼミナール1, 2」では管理会計に関する本を輪読し、知識を深めていきます。 「研究ゼミナール3」では卒業論文のテーマを選択し、文献などの調査を行い、執筆を開始します。 「研究ゼミナール4」「卒業論文」では卒業論文の執筆を行い、その成果を卒業論文発表会で発表します。 また、工場見学やゼミ合宿も行う予定です。</p>				

学修到達目標	原価や費用を削減して、企業がより多くの利益(儲け)を得る方法が身につく。 原価や費用の発生源によって、その管理の方法が異なることを理解できる。 会計情報を用いて、企業の業績の良し悪しを測定できる。 会計情報システムの機能や役割を、より深く知ることができる。 経営学だけでなく、技術やものづくりに興味を示すことができる。
実務経験との関連性	上場企業で経理業務・会計情報システム構築などに従事した教員が、実務経験を基に会計・経営について指導します。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	教科書を事前に読み、要約を作成します。 卒業論文着手後は、卒業論文を作成します。 90分の授業1回当たり、予習と復習を合わせて180分が必要です。
【復習】時間・内容	教科書を事後に読み、理解を深めます。 卒業論文着手後は、指導内容をもとにして卒業論文を修正します。 90分の授業1回当たり、予習と復習を合わせて180分が必要です。

成績評価	
評価基準・方法	「研究ゼミナール1, 2, 3, 4」は、課題レポート50%、報告及び討論50%で評価します。 「卒業論文」は、論文70%、発表会25%、データベース登録5%で評価します。但し、3項目の全てを行った場合のみ、成績評価の対象とします。
フィードバック方法	課題に対して講評を行います。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	上埜進等(2010)『管理会計の基礎 第4版』税務経理協会, ISBN:9784419054595.
---------	--

受講上の留意点等	<p>このゼミナールでは、製造業(ものづくり)に敬意を払える学生を求めています。また、世の中の様々な現象に深く関心を持っている学生を求めています。毎日の通学で見る町並みの移り変わりなどの、身近なことでもいいのです。</p> <p>【卒業後の進路と就職先】 このゼミナールの学びはものづくりと関連が深いため、製造業への就職を推奨しています。 また、会計の知識を直接活かすことができる会計事務所や会計ソフトウェア会社への就職も推奨しています。公認会計士や税理士になる道もあります。 上記以外では、小売業、次いで情報産業への就職実績が多いです。 金融業(銀行、保険、投資等)、総合商社、マスコミなどはあまり推奨していません。また、就職実績も極めて少ないです。 上場企業への就職実績もあります。</p>
JABEE	

科目名	研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	土屋 翔		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410039	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	<p>本研究ゼミナールでは、地域経営を基本として展開していく。発展のために考えられる内容を経営学的視点から考察し、提案、実行していく。 課題発見、解決の能力をあげることを目的とする。 具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域の現状調査 2) 現状を把握した上での改善提案 3) 地域主体の一つが企業であることを踏まえ、企業の実データを用いて、企業経営の課題解決に資するデータ分析と改善提案 4) より現実的に、持続的に発展するための再考 <p>をスパイラルアップのように何度も繰り返していく。 以上の活動の中で、地域における自身の役割を実感し、地域経営の本質を理解してほしい。</p> <p>基本的に教員が問題を提供し、その問題を学生間で解決する作業が何度もある。 しかし、回を追うごとに、自身で問題発見、解決する力を付けてもらう。</p>				
内容	<p>地域担当や業務担当を決め、活動してもらい、その都度全体で共有していく。</p> <p>研究ゼミナール1、2、3、4と連動しつつも、スパイラルアップを要求する。</p>				

学修到達目標	論理的思考能力や内在的批判精神を養うことができる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	予習に2時間。
【復習】時間・内容	復習に2時間。

成績評価	
評価基準・方法	成果物（50%）、貢献度（50%）
フィードバック方法	随時PCにて連絡のやり取りを行い、活動のフィードバックを行う。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	特になし。
---------	-------

受講上の留意点等	<p>可能であるならば、Instagramで@t.c.y.laboを見てほしい。 他にも、研究室にこれまでの活動報告書があるので、必ずどちらかを見てほしい。 積極的に行動することが求められる。</p>
JABEE	